

平成28年度病虫害発生予報第2号

平成28年5月2日
愛知 県

普通作物

・予報内容

作物名	病虫害名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (苗いもち)	やや多い	県全域	前年の穂いもち発生量はやや多い	+
	イネミズゾウムシ	平年並	県全域	前年6月下旬の本田発生量は平年並 前年の予察灯における誘殺数はやや少ない	± -
ムギ	うどんこ病	多い	県全域	4月下旬の発生量は多い 5月の降水量は平年並が多い	± +~+
	赤かび病	平年並	県全域	4月下旬現在、発生を認めていない(平年並) 5月の降水量は平年並が多い	± ±~+
	さび病類	多い	県全域	4月下旬の発生量は多い 5月の降水量は平年並が多い	± ±~+

・防除対策

[ムギ・うどんこ病]

トップジンM水和剤、シルバキュアフロアブル、チルト乳剤25などで防除しましょう。

[ムギ・赤さび病]

3月30日発表の「平成27年度病虫害発生予察注意報第8号」を参照して下さい。

果樹

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
ウンシュウミカン	そうか病	やや少ない	県全域	3月の越冬発病葉率は低い	－
	ミカンハダニ	やや多い	県全域	3月上旬の発生量はやや多い 5月の気温は高い	＋ ＋
ナシ	黒星病	多い	県全域	4月上旬の花そう基部の発病率は高い 4月下旬の発病葉率は高い 5月の降水量は平年並か多い	＋ ＋ ±～＋
	アブラムシ類	やや多い	県全域	4月下旬の発生量はやや多い 5月の気温は高い	＋ ＋
モモ	黒星病	平年並	県全域	4月下旬の発病枝率は平年並 5月の降水量は平年並か多い	± ±～＋
	せん孔細菌病	やや多い	県全域	前年の発生量は多い 4月下旬の発病枝率は平年並 5月の降水量は平年並か多い	＋ ± ±～＋
	ナシヒメシンクイ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	＋
	モモハモグリガ	やや少ない	県全域	4月下旬現在、被害を確認していない（平年並） フェロモントラップにおける誘殺数は少ない	± －
ブドウ	黒とう病	平年並	県全域	4月下旬現在、発生を認めていない（平年並） 5月の降水量は平年並か多い	± ±～＋
	べと病	平年並	県全域	前年の発生量は平年並 5月の降水量は平年並か多い	± ±～＋
カキ	炭疽病	平年並	県全域	前年秋の発生量は平年並 5月の降水量は平年並か多い	± ±～＋
	うどんこ病	平年並	県全域	前年秋の発生量は平年並 5月の降水量は平年並か多い	± ±～＋
果樹共通	カメムシ類	やや多い	県全域	越冬世代成虫密度はやや高い 5月の気温は高い	＋ ＋

・ 防除対策

[ウンシュウミカン・ミカンハダニ]

アタックオイルやトモノールSなどで防除しましょう。

[ナシ・黒星病]

4月14日発表の「平成28年度病害虫発生予察注意報第2号」を参照してください。

[ナシ・アブラムシ類]

アルバリン／スタークル顆粒水溶剤、ウララDFなどで防除しましょう。

【モモ・せん孔細菌病】

病斑のある枝は伝染源となるので取り除き、処分しましょう。バリダシン液剤5やマイコシールドなどで防除しましょう。収穫時期の早い品種は、収穫前日数に注意して農薬を選択して下さい。

【モモ・ナシヒメシクイ】

越冬世代成虫がウメやモモの葉に産卵し、第1世代幼虫は新梢の芯折れを引き起こします。芯折れを確認したら早めに切り取り、園外に持ち出し処分しましょう。サイアノックス水和剤やモスピラン顆粒水溶剤などで防除しましょう。

【果樹共通・カメムシ類】

カメムシ類は、20℃以上で風が弱い夜に活動が活発になり、長距離の移動もするようになります。園内をよく見回り、成虫の飛来状況を確認しましょう。飛来を確認したら、ウメではダントツ水溶剤やアルバリン/スタークル顆粒水溶剤などで、モモ、ナシではアクタラ顆粒水溶剤やアルバリン/スタークル顆粒水溶剤などで防除しましょう。

・留意事項

春先の気温が高めに推移したためチャノキイロアザミウマやカイガラムシ類の防除適期が前年に比べ早くなっています。

防除適期予測日は、チャノキイロアザミウマは、5月中旬、ナシマルカイガラムシは5月下旬、フジコナカイガラムシは、5月末から6月上旬です。各地点毎の予測日等は本日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第1号」、「フジコナカイガラムシ情報第1号」「ナシマルカイガラムシ情報第1号」を参考にしてください。

なお、モモのクワシロカイガラムシの防除適期は、名古屋5月3日、蒲郡は5月4日、豊橋は5月5日、豊田は5月7日、岡崎は5月8日です。

今後も気温が平年に比べ高い状況が見込まれており、さらに防除適期が早まることが予想されます。ほ場での発生状況に注意し、適期に防除しましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キャベツ	コナガ	多い	県全域	4月下旬の発生量は多い 5月の気温は高い	＋ ＋
タマネギ	べと病	多い	県全域	4月下旬の発生量は多い 5月の降水量は平年並か多い	＋ ±～＋
トマト (施設)	黄化葉巻病	やや少ない	県全域	4月下旬の発生量はやや少ない	－
ナス (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	やや少ない	県全域	4月下旬の発生量はやや少ない	－
	ハダニ類 アザミウマ類	平年並 少ない	県全域 県全域	4月下旬の発生量は平年並 4月下旬の発生量は少ない	± －
キュウリ (施設)	アザミウマ類	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並	±

・防除対策

【キャベツ・コナガ】

発生が多いほ場があります。発生が見られる場合はディアナSCやトルネードエースDFなどで防除しましょう。なお、コナガは薬剤抵抗性が発達しやすいので同一系統の薬剤の連用は避けましょう。また、周辺ほ場でのコナガの発生源になるので、収穫終了後は速やかにすき込みましょう。

〔タマネギ・べと病〕

3月1日発表の「平成27年度病害虫発生予察注意報第7号」を参照してください。

・留意事項

タマネギでは白色疫病の発生が多いほ場があります。系統の異なる薬剤でローテーション防除するとともに、発病株は適切に処分しましょう。

果菜類で天敵や訪花昆虫を導入しているほ場では、それらへの薬剤の影響に注意して農薬を選定してください。

キュウリでは、ミナミキイロアザミウマが媒介するキュウリ黄化えそ病（病原：MYSV）、トマトでは、タバココナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病（病原：TYLCV）が発生しているほ場では次作への病害の伝染を防ぐために、栽培終了後、植物残さをほ場外に持ち出す前に施設を密閉して、媒介虫を死滅させましょう。

花き

・留意事項

キク（露地）では、親株床でアザミウマ類やアブラムシ類が多いほ場があります。防除を徹底しましょう。また、白さび病の発生があるほ場では、発病葉を早めに除去するとともに、系統の異なる農薬でローテーション散布をしましょう。

今後はアザミウマ類やハダニ類が増加する時期になります。本ぽと親株床を含めた防除に努めましょう。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台4月28日発表）

〈特に注意を要する事項〉

期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

〈予想される向こう1か月の天候〉

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：20% 高い：70%

〔降水量〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%

〔日照時間〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%